

「駆け上がれ、大槌の山」



5月24日(日)、「おおつち新山高原ヒルクライム2026」が開催されました。新山頂上付近の工事完了により、3年ぶりに待望の再開を果たしました。本大会は、文化交流施設「おしゃち」から約9kmを走る「パレードの部」と、そこから標高約1,000mの頂上まで計約24kmを走行する「ヒルクライムの部」で構成されます。

パレードの部では、選手たちが最高のカスタマイズを施したロードバイクや小径車などで挑戦する様子が披露され、応援する町民からも笑顔があふれる和やかな場面が見られました。

「ヒルクライムの部」では、選手たちが今日まで鍛え上げた脚と相棒のロードバイクを信じてタイムアタックする姿に魅了されます。

緩急のついた登り坂やS字カーブに差し掛かり、苦戦する表情を浮かべながらも巧みにギアを調整して自己最速を狙う、白熱したパフォーマンスが見られました。

豊かな大自然が広がる頂上付近では、疲れ切った体に新山の澄んだ空気を胸いっぱい満たしつつ、互いの登り切った雄姿を称え合う感動的な光景が生まれました。

午後は、選手から運営スタッフまでが一斉に集結し、大槌鹿肉をふんだんに使ったカレーライスを食べして心身ともに満たされている様子でした。

秋田県からの参加者は「初めて大槌のヒルクライムにトライしたが、東北の中でも上位に入る難易度だと思う。個人の力量が試されるいいコースでした」と述べ、関係者への感謝を伝えていました。「再生・創生・共生」を理念とする本大会は、地元住民の温かいおもてなしとアットホームな雰囲気が全国のヒルクライマーを魅了しています。

勝ち負けだけにこだわらず、少しでもロードバイクに興味がある人は、ぜひ来年参加してみてください！

詳しい情報やタイム計測は、「おおつち新山高原ヒルクライム」や「MSPO ENTRY」で公開されています。

